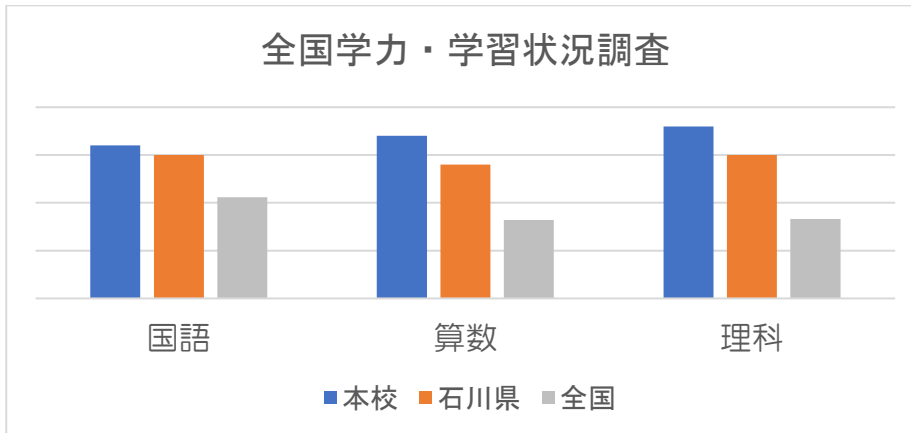


令和4年度 学力調査の結果について



【6年生】



○6年生の国語では、全国や県平均正答率を上回った。

- ・漢字の学習では、言葉（熟語）や文・送り仮名も含めて練習するよう指導する。
- ・条件を丁寧に読み解き、条件に合った文章にしたり、相手意識をもって文章を書いたりすることを意識させ、要約して書く力を鍛えることができるようにする。

○6年生の算数では、全国や県平均正答率を上回った。

- ・説明する際には、条件を正しく捉え、必要な条件（式・言葉・図）を確実にに入れて話したり書いたりするよう指導する。

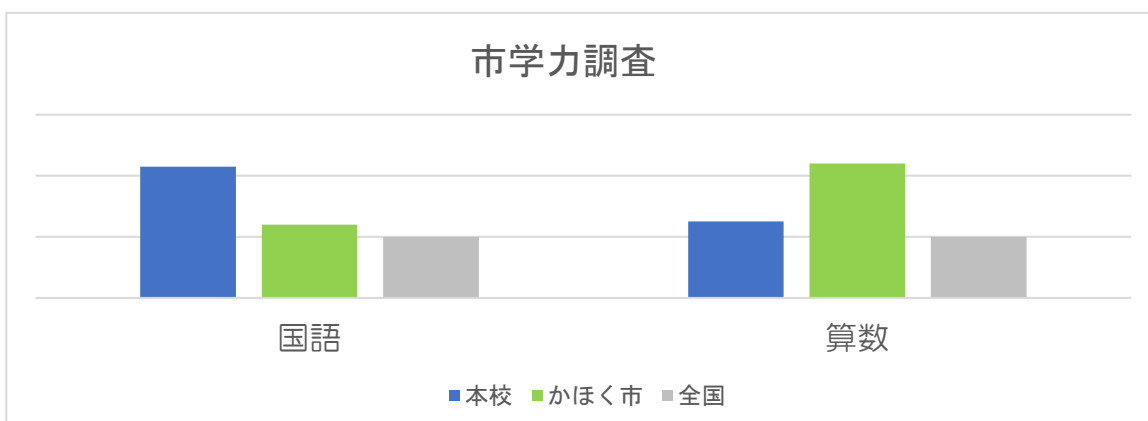
○6年生の理科では、全国や県平均正答率を上回った。

- ・児童が興味をもち、進んで追究したくなる活動を意識して取り入れる。
- ・理科の正しい用語や適切な表現を用いて、説明したりまとめを書いたりする意識をもたせる。また、モデル図を用いて伝えたり仮説に沿って説明したりするなど、表現活動の充実を図る。

○6年生の社会では、県や市平均正答率を下回った。

- ・求められていることに対して具体的に表現できるよう指導したり、「○○なのに、□□なのはどうしてか。」という矛盾をつく視点での課題づくりができるよう指導したりする。
- ・経度の表し方や川の特徴など、知識理解として各項目をしっかりおさえる。

【5年生】



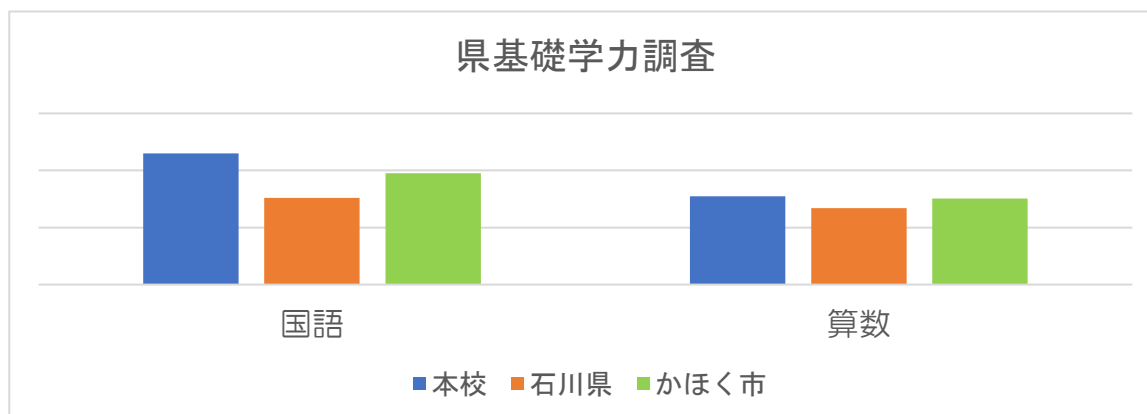
○5年生の国語では、全国や市平均正答率を上回った。

- ・相手意識をもって話したり話し手の意図をつみながら聞いたりできるよう指導する。
- ・各種テストなどに取り組む際には、できる問題から取り組み、諦めずに最後まで考え抜くことができるよう指導する。

○5年生の算数では、全国平均正答率を上回ったが、市平均正答率を下回った。

- ・面積や体積、長さなどの学習をする際には、様々な図形の面積や体積、長さを求める活動だけでなく、身近なものの面積などを実際に調べる活動を通して、児童の量感を養うよう指導する。
- ・グラフや表のどの部分を根拠に考えたのかを聞き手に示し、説明するような活動を取り入れる。
- ・計算の途中式や意味を説明する力を付けるために、授業の中で式の意味を問い、自分でもそれを考えることができるよう指導する。

【4年生】



○4年生の国語では、県平均正答率を上回ったが、市平均正答率を下回った。

- ・熟語、漢字の成り立ち、部首、書き順のきまり、文に表すこと等を児童に意識させ、漢字練習に工夫して取り組むことができるよう指導する。
- ・児童が書いた文章を自分で読み返し、修正することができるよう指導する。

○4年生の算数では、県平均正答率を上回ったが、市平均正答率を下回った。

- ・活用問題で必要な文や図、言葉や式に着目できるよう、囲んだり印を付けたりして考える材料解決のポイントを見つける場を取り入れる。
- ・「式・数等の事実（根拠）をもとに理由をつけて説明する」「順序立てて説明する」を指導する。
- ・図形の定義は、新しく学ぶ際に既習の定義を振り返り、定着を図る。道具を活用する際には、何のために使っているのか、その目的を明確にし、根拠として考えにつなげていく。